KSKR

2019. 7　Vol.49

つながり通信

編集・発行人：社会福祉法人つながり
大阪府高槻市富田町4－7－16
TEL：072－697－7080

2019年6月2日　救命講習

1996年5月1日　第三種郵便物承認　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行

社会福祉法人つながり・つながり後援会

1P	表紙・目次
2P～3P	家族会ひだまり会長　山口富美恵　退任の挨拶
4P	家族会ひだまり新会長　宮浦ヨシ子　就任の挨拶
5P～7P	つながり後援会＆家族会ひだまり　第17回定期総会開催
8P～10P	社会福祉法人つながり　各事業所管理者・担当者より 【サニースポット、コラム、ワークスポット、ふらっと、ライラック、かるがも】
11P～12P	社会福祉法人つながり　法人本部の取り組み
13P	つながり後援会・社会福祉法人つながり　ご寄附の報告
14P	裏表紙

つながり通信について…

地域に開かれた事業所を目指し、法人内の各事業所の取組みや活動内容等、情報開示を行い、より多くの方々に当法人の方針や活動内容を知っていただく事を目的としています。

家族会ひだまり会長退任にあたり

山口　冨美恵

写真は、2015年11月号のインタビュー時に撮影したもの

寄稿 !!

長年にわたり、後援会・家族会を引っ張ってこられた山口さんが、今回退任されます。それに先立ち、これまでの歩みを振り返り、サニースポット建設にいたる以前の経過、またご自身が会長を引き受け、その後の家族会活動で経験され感じてこられた思いを、ご寄稿頂きました。

紙面構成上、一部割愛して掲載

毅（息子）が中学3年になり、弟が小学1年生の入学を機に、校区の四中に帰ってきました。しかし、当時は、卒業後の障がい者の行き先がなく3年留年しました。

富田地域に障がい者の通所施設を

卒業後の進路先をどうするのかーその当時、高槻市役所には同和対策部があり、部長と第四中学の同和主担の先生、(部落解放同盟高槻富田支部)支部長、身体障がい者組合会長、(部落解放同盟大阪府連合会)生活対策部長、そして保護者からは私が,話し合いに参加しました。

毅の出産から、うの花重度学級、生野ろう学校(現大阪府立生野聴覚支援学校)そして地元校区へと、毅と共に歩んできたことを三日にわたって話しました。

2015年11月号のインタビュー参照

その結果は、

「つきのき学園に行ってもらいますが、そのかわりタクシーで送り迎えをします」

と、決まりました。

わかってほしいと一生懸命、自分の恥も忘れて、三日もかけて話したことが、むだになりました。

家族を犠牲にしながら子どもと共に生野で学んだ、ろうの人特有の身体でわかっていく教え方は健常者にはわからないことも話したのですが、楽をさせてやったら喜ぶと聞きとられたことに、怒りを感じました。

つきのき学園については、わかっていました。

毅が富田小学校重度学級に入学した1年生の2学期に、重度障がい者の行き場がなく市と交渉したからです。その作業所がつきのき学園ですが、そこは5年間で修了です。

「その後はどうして下さいますか」

「親は苦しい時悲しい時、この子と生きているのです。義務があるのでしたら、権利も下さい」

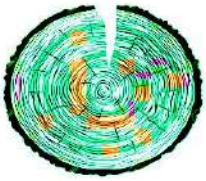
「私は、地域に知的障がい者の作業所を作ってほしいのです」

とつめより、やっと『障がい者いこいの家』が出来ました。

旧富田隣保館を改造し、2階部分に作業場を作った『いこいの家』

現在は富田ふれあい文化センター分館（解体中）

2003年4月サニースポットオープンまでの20年間を“いこいの家”で



いこいの家を少しでも大きくしていこうと一軒一軒戸別訪問し、人数も増えてきましたが、給料の問題が出てきました。**出勤と能力別で決める**とのこと。

毅は、ひと月100円、能力も100円でした。

後に続く後輩のことも考え、

「重度障がい者は地域でしか生きられない」

「理解と思いやりを持ってほしい」

と言いましたが、一番に裏切られました。

ここで負けてられないので、

「毅はお金はいりません」

と言うと、ほっとしたように、

「そうか、一銭もいらんか」と言うので、

「そのかわり、訓練に来ているのですから、一人前に就職させてやってくださいね。」

と言い返すと、「負けた」と言われました。

軽度の人は社会人として就職し、一人減り二人減り、重度だけが残っていきました。毅の後輩で軽度のろうの人は、生野ろう学校まで行かなくとも、保育所、富田小、四中と地域で学び、技工士として就職した人もおります。毅を見本に、受け入れ態勢を充実していって頂けたと聞いております。

重度だけが残ったいこいの家では、当初いろいろしんどい事もありましたが、人数も増えて少しずつ充実してきた矢先、同和対策事業の期限切れとなりました。心配で高槻の授産所の名簿を調べてみると、いこいの家がのってないことがわかりました。

その頃、

「保育所の跡地に、総合福祉センターを作ろう」

と要求していました。

中々市が動かないので、自分たちで作ろう!ということで、**施設づくりの運動**が始まりました。

晩の集りは、西成から経験のある講師に来ていただき、勉強会を何度もしました。寄付も集め、そうしてサニースポットが誕生しました。

障がいの重度・軽度にかかわらず

私達のサニースポットは、**障がいの重度、軽度に関わらずみんないっしょ,**思いやりの心、助け合いの心をいつまでも持ち続けることを念頭にしてきたつもりです。

サニースポット建設から三年目を迎え、ある日4～5人の役員さんが、私の家へ来られ、**家族会の会長**を頼みに来られました。
その場は何も考えず引き受けたものの、後で考えるとだんだん心配になり、その日に断りの電話を入れました。
が、それから毎日のように頼みの電話で、私も困っていました。
父さん（主人）が見るに見かねて、
「受けてあげ、毅もお世話になってるんだから」
「毅と俊材は、今までのように晩はみるから」
と言ってくれました。
それで、引き受けましたが、やっぱり心配でした。

会長になり、まず建設の時に寄付して頂いた方々に、冊子を作るなど何らかの形でお礼をせねばと思いましたが、今さらとの声もあって、立ち切れになりました。それで、せめて「つながり通信」でお知らせしたいと思いました。

つ**ながり通信**もしばらく途絶えていました。事業報告や今後の方針など、サニースポットの 活動をわかってもらう大事な通信なので、「施設づくりを支える会」で活動していた後援会の賛助会員さんにお願いし、(後援会発行の)通信の編集を引き受けてもらいました。
2006年に特集号を発行し、以後しばらくは印刷と発送までの作業を、家族会の役員と運営委員がやっていました。
のちに、社会福祉法人が責任発行になり、それぞれに分担できて、ずいぶん楽になりました。
それを機会に、会長をおろしてもらおうとがんばりましたが、だれも持つ人がなく、私が引き続き持つことになりました。

重度の夜間支援型グループホーム建設を

軽度のグループホームはできていましたが、重度の夜間支援型のグループホームがありませんでした。
全体集会の場で、ある家族から、三人家族の父親が若くして脳梗塞で身体が不自由になり、祖母の自分が病院通いもしている状態なので、グループホームを!と要望が出されました。
私も、みんなで考えていかないとと、次の集りで**グループホームの用意として少しづつ積み立てを**と、提案しました。ところが、
「お金がない」
「まだ早い」
「山口さんは歳がいかれてるから、グループホームを考えるけど、うちはお父さんが反対やと思う」
等、反対意見も多く、それ以上進めていけませんでした。
しかし、どうしても必要だと思いながら、帰りに、タウンスペースWAKWAKへ、足が向いていました。
代表でつながり後援会副会長（現つながり業務執行理事も兼務）に協力をお願いし、理事会・評議委員会の承認もされたので、行動に移すことができました。

建てる場所は、サニースポットの近くがいいと探していました。古い文化住宅がある場所が見つかり、そこしかないと思い、所有者に話をすると気持ちよく承諾をして下さいました。

昨年の5月でグループホーム「コラム富田」が開所してから、丸１年が立ち、次は**女性用のグループホームを**と私もはりきっていましたが、体調をくずし、会長の任務も出来ず、役員さんや みなさんにご迷惑をおかけしています。

長い年月、私の歩んできた道は、その時代時代に押し流され、障がい児者の行き場を探し求め、施設づくりで一生が終わるように思えます。

作らないと行き場がない時代から、今は自分の思う場を探せる時代に。入所金もいらない、家族会も作らない所もあると聞きますが、よくよく考えてください。
障がい区分でもわかるでしょうが、区分がひとつ下がると、法人の収入は減ってしんどくなり、国はラクになり、しめつけが来ています。
これからは、家族会をしっかりとした会にするよう、みんなで力を合わせ支えてくださるよう、私からのお願いです。

①国の補助金が重度障がい者へは多く、軽度障がい者へは少ないのは、通所などある程度自分のことができるからだと思います。重度障がい者は介添えがないと何もできないので、親は働きにいけません。
家族会については、軽度の保護者さんは働く希望があれば働けるようにと、重度の保護者がなるべく役員を持ち、軽度の保護者さんの負担が少ないように、今までしてきました。今後はどうしたらよいのかを、考えていって下さい。
②家族会は、障がいの重度、軽度に関わらずみんないっしょということを念頭に助け合ってきました。給料の問題についても、よく考えて下さい。
③法人と、後援会・家族会とは、車の両輪のごとく、今後とも支え合っていきましょう。
以上です。

（紙面構成：家族会特別会計・後援会通信担当　岡本悦子）

ごあいさつ

社会福祉法人つながり後援会
家族会ひだまり会長　宮浦　ヨシ子

……山口前会長とは、運営委員・書記・会計監査・副会長をさせて頂いたことを通して、十年以上ご一緒に活動させていただきました。

山口さんは、会長として忙しい中、役員会のお仕事のみならず、「遠くから出て来るのは大変だから」と、夜の会合はすすんで出てくださいました。その陰には、「留守番はいいよ」と毅君をみてられたご主人の協力も大きく、私もいつも感謝していました。

「会長は山口さんに任せておけば安心」と、だれもが思っていましたので、これまでも何度か「役をおりたい」と言われても、中々おやめになることが出来ませんでした。

グループホームを、富田近辺のサニースポット近くに作る話が決まりました。適当な候補地が中々見つからないので、山口さんは毎日のように、近くに遠くにと、空き家を探して歩き回られ、やっと現在のコラム富田の土地を見つけ……ご努力の賜物です。

また、遠く(原)の畑作業にいけない重度の利用者さんのため、山口さん宅の空き地を畑にして提供して下さいました。

「青い空・太陽・空気が、青い芽を育む。たとえ、どこまで解るかわからなくても、身体で感じ、心も育っていくと思う」

と、いつも言っておられました。（中略）

先頭を切って家族会のみんなを引っ張ってきて下さり、本当にありがとうございました。……

私事ですが、息子は平成十五年に高槻養護学校を卒業し、その年から開所したサニースポットに入り、……二階のものづくり科とコラム富田でお世話になっています。

二年後父親が亡くなり、職員さんが親身になって支えて下さいました。その頃と同じように今も、分けへだてなく、一人ひとりを大切に考えて下さる、暖かな陽だまりのような場所です。……

最近、「家族会はない方がいい」という方もおられますが、皆年齢を重ねて行く程に、人と人のつながりが必要だと気づきます。

十七年前は若かったご家族の皆様方も、親亡き後の子どもの行く末と同時進行で、自分たちの老後も考えて行かねばなりません。

今年は、次のグループホーム、成年後見人等、一歩一歩進めていきたいと思います。

山口前会長のように豊富な経験も知識もありませんが、皆様のご意見とご協力をいただき、今年一年務めさせていただきます。

＊本稿は、総会時のごあいさつより、抜粋して掲載

つながり後援会＆家族会ひだまり　第17回定期総会開催

文責：家族会特別会計/つながり通信担当　朝日（岡本）

第17 回合同総会が5 月20 日(月)に開催されました。総会は、宮浦ヨシ子・浜岸まり子副会長が司会、家族会会員・嶋津美千代さんが議長を務め、来賓として、(一社)タウンスペースWAKWAK 岡井寿美代副代表理事(高槻市会議員)、(一社)高槻市人権まちづくり協会奥田清幸富田分局員、富田まち・くらしづくりネットワーク勝部忠雄代表らにもご参列いただきました。

法人からは川﨑理事長・岡本業務執行理事、藤森法人本部事務局次長、妹尾サニースポット施設長が出席し、川﨑昭博理事長が法人を代表してあいさつを述べました。

会員出席者は33名(委任状14 名含む)で、つながり後援会会長には引き続き梶谷忠大さんが、家族会ひだまり会長には,前年度副会長の宮浦ヨシ子さんが新しく就任されました。

つながり後援会

＊お名前の敬称・ルビ略

会　長	梶谷　忠大	元・富田自治会連合会長
副会長	宮浦ヨシ子	家族会ひだまり会長
副会長	田中　薫子	(元)サニースポット利用者家族
副会長	茨木　照世	(前)富田・赤大路地域人権教育推進委員会委員長
副会長	岡本　茂	タウンスペーWAKWAK代表理事
副会長	中村野里子	元第四中学校教員
事務局	藤森　正志	社福つながり法人事務局次長
会　　計	中川　春枝	家族会ひだまり
会計監査	益原直樹	部落解放同盟高槻富田支部書記長
会計監査	妹尾　弘宣	社福つながりサニースポット施設長

家族会ひだまり

役　職	氏　　名	所　属
会長	宮浦　ヨシ子	家族会員
副会長	浜岸　まり子	家族会員
副会長	清水　直子	家族会員
書記	山倉　憲子	家族会員
書記	根本　幸子	家族会員
会計	中川　春枝	家族会員
会計監査	河野　照子	家族会員
特別会計	岡本　悦子	後援会員
特別会計	畠山　定子	後援会員
特別会計監査	益原　直樹	後援会員

以下、総会でのご祝辞、ならびにご挨拶、質疑での発言の要旨を簡単にご紹介

社会福祉法人つながり　川﨑理事長

17年前と大きく環境は変わり――
サニースポットも、若い施設長、事務局次長ががんばっている。
若い職員が多く、職員がやめない魅力ある職場にしていきたい。
後援会・家族会の支援を頂きながら、良いかたちの法人づくりを、
課題として―利用者に選んでもらえる施設・法人へ。
福祉が身近になり一般化し、株式会社やNPO法人の参入も進み、事業所の特色、
差別化が進んできている。サニースポットも魅力をアピールできるような
施設づくりが大きな課題と考えている。

親亡き後をと「コラム富田」ができ、次は女性向きグループホームを！
昨年6月の大阪北部地震で倒壊の恐れとなった富寿栄団地2棟が
取り壊され一角が更地になっています→総合的なまちづくりを。
選ばれる法人をめざし、若い職員の育成を図ってほしい。

(一社)タウンスペースWAKWAK 岡井副代表理事

山口さん、長いあいだの家族会会長、ご苦労さまでした。山口さんの
ご次男と私どもの一人息子が小中の同級生というご縁です。
さて、支援学校などへの施設説明の際に、入会金や会費のことで
家族会への入会をためらわれる方が多いと聞きます。子育ての悩み
を打ち明けあったり交流したりする「つながり」の好さをもっと理解して
いただき、入会金や月会費などについては、法人と家族会で時間を
かけて話し合い、良い方向を見出して行けばいいと思います。
女子の入れる第二のコラム富田建設も目標ですね。

つながり後援会梶谷会長

サニースポットは家族と共に作った施設であり、またグループホーム建設
も家族会の後押しでできました。親が金を出してでも施設を作った17年前とは
異なり、今は保護者が施設を選ぶ時代になり、他でも生活介護は定員が空いてきてい
ます。区分6の方は、国からの補助が年間300万円あるが、定員が埋まらなければ、
人件費を減らさざるをえない状態にならないとも限りません。
サニースポットは、立地条件は良いので、入会金だけで話が
立切れてしまうのは残念です。入会のハードルは下げて、
グループホーム建設や入所対象の方から寄付をいただく方向も
考えられます。すぐに結論ではなく、法人事務局からの投げか
けを受け、1年かけて話し合っていってほしい。

岡本業務執行理事

→ 2･3ページに山口前家族会会長の寄稿、4Pに宮浦新家族会会長のご挨拶を掲載しました。

中村野理子
つながり後援会副会長

つながり後援会･家族会ひだまりの定期総会で、法人から重大な提案がなされました。

『高槻市内では生活介護の事業所が増えてきており、どの事業所でも利用者獲得には苦慮している。

事業所を選条件の一つに、家族会、入会金、会費のあるなしが大きくかかわってきているようです。法人としては、家族会の成り立ちや良い部分は十分理解しており、家族会の運営や方針については、法人が口を出すべきことではないと思いますが、年々報酬単価や支援区分も下げられる傾向がある中、何とか新規利用を獲得していかなければ、今後の法人運営にかかわってくることも事実です。

法人の状況を踏まえた上で、家族会の中で入会金について議論していただき、今年度中に,法人と家族会とで協議をしたいと考えておりますので、お願いいたします』とのことです。

つながり家族会規約の第2条目的では、

「一人ひとりの生活から出発した地域福祉の姿を創り出し、人間主体の『新しい福祉のまちづくり』を推し進めるという社会福祉法人つながりの理念に基づき、社会福祉法人つながりの事業を応援･支援し、地域福祉活動の推進を図ることを目的とする」

また、家族会ひだまり会則の第2条目的では、

「本会は、会員の相互親睦と障がい者の基本的人権を守り、社会的自立を援助するとともに、施設の充実、並びに向上発展に協力することを目的とする」

とあります。

市内でも生活介護の事業所が増えてきているとは、法人をたちあげた時のことを思えば、隔世の感があります。また、本当に喜ばしいことであってほしいものです。

入会金二十万円が高いのか、安いのか、家族会はどうあるべきなのか等々、考えさせられる提案でした。後援会員の一人の願いとしては、今後も利用者の人権を守り、大切にする事業所であってほしい。家族の願いが尊重され、風通しがよく、地域からも信頼される事業所で在り続けていただきたい。そして、他の事業所ではまねのできない特色、新しい福祉の推進をしていただきたいものです。

「**入会金・会費**」について

サニースポット建設にあたり、お金のあるなしで差別のないようにするために、１７００万円の基金目標をたて、保護者組織ー「施設をつくる会」と、支援する「支える会」の双方で、資金集めを行い、８００人を超す方より多額の寄付をいただいた。それに加え３０００万円を、独立行政法人福祉医療機構より２４ヶ月無利子、その後年１．１０％の貸付利率―利子もあわせ２０年の返済約束で借り入れ、さらに、開設当初の運営資金など１０００万円強の不足分については、数人の個人より２０万円×５０口を無利子・無担保で借りた。それらの返済のため、つながり後援会ひだまりでは、２００３年４月開設当初の約束事として、サニースポット利用にあたって、入会金２０万円と、返済金ならびに新たな事業―グループホーム等建設のため月々の会費6,000円（10年目より3,000円に）、年間の後援会活動費3,000円（現在は2,000円）寄付する取り決めをしている。

一番大切にしていること　法人設立から17年目を迎え、設立当初の様子を知る者も少なくなりました。しかし、法人理念にある通りその思いは、現在の職員にも引き継がれ、未来へ引き継ごうとしています。今回、当法人の各事業所管理者・担当者より「**一番大切にしていること**」を聞きました。当法人の現在の姿が垣間見えると思いますので是非ご一読下さい。

サニースポット（生活介護・就労継続B型）

サニースポット管理者
妹尾　弘宣

開所当初から勤めさせて頂き、17年目を迎えました。当時は、年齢も20代で勝手な事を言っては、周りにご迷惑をおかけしたことと思います。サニースポットの喫茶で3年間、利用者支援をはじめ、一泊旅行や夏祭りなどの担当を経験させて頂きました。その後、ライラックを開所し、ガイドヘルプ・ホームヘルプ・相談支援の事業を立ち上げました。また前任の担当職員が退職したことでグループホームのサービス管理責任者も兼務し、ホームを2ヶ所開所しました。今思えば、かなり無茶苦茶なことをやっていたと思います。相談支援事業の実績も認められ高槻市より委託相談事業も受けることになり、相談支援員もさせてもらいました。この法人でたくさんの人に助けられ、様々なことを学ばせて頂いたことが力となり、現在の自分がいるのだと改めて感じます。ライラックからサニースポットへ異動する際もそうでしたが、後任の職員がいたからこそ、次に進めたのだと思い職員の皆様にも感謝しています。平成29年4月より、サニースポット施設長に就き、今年度で3年目になります。あの20代の兄ちゃんやったやつが大丈夫かいなとお思いでしょう。この間、結婚し子どもも3人授かり、年齢は40のおっちゃんになりました。サニースポットに戻ってきた時は、正直しんどいことの方が多かったのですが、現在は職員にも恵まれ楽しめることも増えてきました。

今の自分があるのは、利用者様、ご家族様をはじめ、私に関わって下さった皆様のお陰です。今まで経験したことを活かし、サニースポットの利用者様、職員が**“生きがい”**と**“やりがい”**を持って笑顔で過ごせるように取り組んで参りますので今後も宜しくお願いします。

私が、一番大切にしていることは、何事にも**“感謝”**を忘れないことと**“謙虚”**な気持ちでいることです。たまに冗談で「偉いさん」と呼ばれますが、自分が偉いと思ったことはありませんし、もしそう思うようになったら他人を見下してしまうことになるのではないかと考えています。福祉の仕事をしている上で、また個人的に人と接する上で、すべて対等であるべきだと思っています。皆様に、この**“感謝”**や**“謙虚”**が伝わらないような時は、今までのように遠慮なく叱って下さい。それがまた力となりますので、よろしくお願いします。

ワークスポット（就労移行・自立訓練・就労定着）

ワークスポット管理者
佐伯　美弥子

平成22年5月、高槻市の委託事業「J4C」の企業開拓員として入職、2年目からはワークスポットの就労支援員として勤めさせていただき9年が経ちました。

ワークスポットは、利用者様が2年～4年間の訓練の中で大きく成長され、ご自身の手で就職を勝ち取り、そしてワークスポットを卒業されていきます。「一人の人が社会に出て、企業という組織の一員として立派に役割を果たし、企業の皆様に信頼されて、社会人として自立した生活を送る」ための第一歩に携わるという私たち職員の役割や責任はとても重大だと感じています。

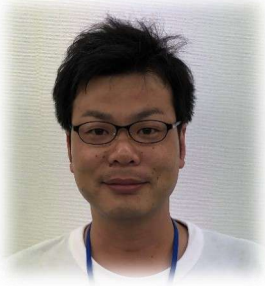
ご家族様方が育んでこられた大切な数々のスキルに加えて「働くために必要なスキル」とそれ以上に重要な「長く働きたいと思い続ける精神力」を養って頂くために心を砕き、面談を重ね、ご本人様とご家族様が希望される将来の実現のために日々の支援を行っています。

就職活動にあたって私たちにできることは極わずかなことで、ほとんどは利用者様ご自身が訓練の中で成長し、働きたいと自覚され、雇用を決定する実習で訓練での成果を発揮することができればそれが就職に繋がります。私たちは、求人情報を吟味し、ワークスポットの利用者様の強みを活かせる就労に繋がるかを想像し、提案する。面接を一緒に受けた後は実習でのご自身の力を信じて「採用」を待つだけです。

利用者様が社会に出たときに、どんな困難に見舞われるかはわかりません。ただ、ワークスポットのご利用期間内に、どんな困難があっても乗り越える力を身につける・伸ばして頂けるようにしていくことが私たちの支援のテーマであり、大切にしている事です。

これまでに就職された卒業生さんたちが「頑張ってるよ～。」と笑顔で会いに来てくださる時の喜びを糧に、この先もう少し私も卒業生を見習って頑張っていきたいと考えています。

ふらっと（放課後等デイサービス）



ふらっと管理者
平谷　知英

放課後等デイサービスふらっとは平成25年3月に開所し約6年間が経過しました。利用児の学年は小学1年生～3年生(低学年・7名)・4年生～6年生(高学年・8名)・中学生7名・高校生7名／男女数は男子21名、女子8名が1日定員10名の中で、各曜日みんなで外出する時間もあれば、個別・小集団でじっくりプログラムに取り組む時間もあります。

「放課後等デイサービス」は、障がいのある学齢期児童が学校の授業終了後や学校休業日に通う療育機能・居場所機能を備えた福祉サービスです。障がい児の学童保育と言えば福祉サービスになじみがない方でも何となくイメージがつくのではないかと思います。

私は、平成27年6月からふらっとに転属になり、転属前は「学童のような雰囲気なのかな」と想像していましたが、転属後は「これだけ異なる学年・特性・個性を持った利用児が1つの空間でどのように一緒に過ごすことができるのか」と想像以上に身の引き締まる想いがしました。

私自身がワークスポット・サニースポットと成人事業所に所属していた経緯から、ふらっと利用児・保護者・職員に対し一貫して大切にしていることが以下の3点あります。

- 「**将来を考える**」→感情や想いを表すことがやや難しい子どもたちに対し、どれだけその気持ちに気づくことや近づけることができるか。1つ1つの成功を次の進路に活かせるよう情報を集め必要機関に繋げていく。
- 「**正確に伝える**」→伝える方法は様々でも正しく伝えることができているのだろうか。また、保護者に対し、起こった出来事に関して正確に報告し、その後の対策を考えていく。
- 「**可能性を考えて拡げる**」→今、考えられる仮説を実証しながら新たな仮説を立てること。

子どもたちの体調や様子はその日によって変わります。変化に対応して、当日のプログラムを変更し、帰宅してからも「楽しかった」という気持ちが保てるよう日々取り組んでいます。

コラム（グループホーム）

コラムサービス管理責任者
仲津　秀行

コラムで行う支援には、例えば身体介助や食事提供、掃除、洗濯、買い物、健康管理、通院同行、服薬確認、イベント開催、自治会活動、防災・減災、日ごろのコミュニケーションや助言といった非常に幅広いものがあります。その中でも特に大切にしている事は、利用者様一人ひとりのライフスタイルや特性に合わせた「**個別支援**」です。当然ですが、利用者様は生まれも育ちも性格も価値観も一人ひとり異なります。グループホームの利用目的も、将来の一人暮らしのためのステップアップや、社会ルールにつながる共同生活ルールの習得、また、生涯に渡る安定した生活の継続等、様々です。人それぞれの人生を見つめながら、私どもは利用者様をひとくくりにするのではなく、必要な支援を個別に行うことを大切にしています。また、もう一つ大切にしている事が「**生活の質(QOL)の向上**」です。

例えば、夕食の場面を想像してみましょう。普段、私たちはまず、「今日は何を食べよう？」(和食？洋食？中華？)から始まり、「どこで食べよう？」(自宅？お店？)、「誰と食べよう？」(家族？友人？一人？)、「いつ食べよう？」(早め？遅め？お風呂前？お風呂上がり？)など、一つ一つを自分の好きなように選択して、少しでも満足度を上げようとしていることに気付きます。何気ない日常ですが、この積み重ねこそが生活の質の向上です。これは食事だけではなく、入浴や睡眠、自由時間の過ごし方、心身の健康や住環境など、生活すべてに当てはまります。もしも障がいがあるが故に選択の機会を奪われ、満足度が上げられなければ生きがいそのものを奪われることにもなりかねません。だからこそ、利用者様に選択の機会を提供することは、生活の質の向上につながるとても大切なことだと考えています。

見た目もきれいで設備の整ったグループホームはいくつもありますが、建物や設備面だけで良し悪しが決まる訳ではありません。やはりそこで行われる支援の内容こそが評価されるのではないかと思います。職員一丸となって努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ライラック（ホームヘルプ・ガイドヘルプ・相談支援）

ライラック管理者
小西　信之

僕が業務を行う上で大切にしているポイントは大きく3点あります。

1.　「社会福祉法人つながり」の一員である事

2.　僕が行う「支援」を他の人が行えば、どんな支援となるのか？

3.　誰に対しても「敬意」を持つ事

1番目は、サニースポットで6年、ライラックで10年目を過ごす中で大切にしてきたポイントです。逃げ出したくなる様な業務があっても、ライラックという事業所の看板や「つながり」の一員という意識を強く持つ事で、『しっかりやりきらないと』という思いが湧き上がり、頑張れるようになります。これは長年働く中でそう思うようになっていきました。

2番目は利用者さんの支援に対して、『自分の支援は正しいのか』という事を常に考えています。自己満足だけの支援になってしまわないように、他の人だったらどうするだろうと、色々な場面を想定しながら、客観的に物事を見ていく視点を心がけています。

3番目はサニースポット勤務時に先輩職員がよく言われていた言葉です。恥ずかしながらその先輩職員の様になりたいと憧れていましたし、**“誰に対しても”**という言葉の意味が理解できてからは、潜在意識のごとく常に意識する様になりました。ですが正直、だれに対しても「敬意」を持てているとは言い切れません。尊敬する先輩職員に追いつくことを目標として、まだまだ至らない点も多くありますが、皆様のご指導、ご意見を頂きながら日々頑張っていきたいと思っています。

キッズスポットかるがも

「おはよう、いらっしゃい！」「久しぶりだけれど、元気だった？」
笑顔で入ってこられる利用者さん達。元気な挨拶で、かるがもの1日が始まります。開設されて12年目になった現在、2500人以上の登録があります。これからも利用者さんに安心してもらえる場となるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思います。（川本）

スタッフになる前、私はここの利用者でした。その時スタッフさんの優しく素敵な対応に私も子供も、かるがもに行くのが楽しかったです。スタッフになった今、私も利用者さん親子に『来てよっかた』と思ってもらえる場所を提供したいです。（小牧）

毎日、たくさんの笑顔に元気パワーをもらい、日々、若返って？います。安全に楽しく過ごしてもらえるよう、環境（おもちゃの配置や壊れ等のチェック、除菌）、知識（子育てに関する知識やいざという時の対処法など）を整えていきたいです。（後藤）

「あぁ楽しかった」とかるがもに来た親子が元気になる場所になるようにがんばります。（浅井）

平成28年11月からかるがものスタッフに仲間入りしました。広場にやってくる親子を笑顔で迎え、笑顔で見送ることを心がけています。「来てよかった！」と思ってもらえたら嬉しいです。（中井法子）

働いていて嬉しいことのひとつに、以前利用されていたお母さんや小学生の子どもたちが、かるがもに顔を出して「元気だよ！」と話してくれることが時々あります。かるがもで、つながった輪が、今後もつながっていくと嬉しいです。（上村）

社会福祉法人つながり　法人本部の取り組み

法人本部では、平成29年度より職員が長く働いてもらえるようにと、職員の処遇改善とやりがいをもって働ける職場づくりの整備を中心に取り組んできました。『キャリアパス制度と連動させた賃金基本給表の改訂』『昇給昇格人事評価委員会の設置』『職員研修制度の充実』等を柱とした方針を取りまとめ、平成30年度より導入しました。

職員処遇についての取り組み

① キャリアパス制度と連動させた賃金基本給表の改訂

正職員、専任（嘱託）職員の等級をキャリアパスに合わせ7等級に細分化し、年齢給＋職能給の形に賃金基本給表を改訂しました。また、パート職員に関しても、勤務地や勤務時間に応じ、3等級に改訂しました。（年齢給は55歳まで毎年昇給）

② 人事評価委員会の設置

夏・冬賞与前、及び、昇給・昇格時期に人事評価委員会を開催します。職員人事考課シートによる自己評価を管理者が評価、管理者人事考課シートによる管理者への逆評価、それらをもとに人事評価委員会（理事長、業務執行理事が委員として参加）による最終評価を行い、適正な人事評価を行います。

また、『職員研修制度の充実』として、新採用職員に対する研修、サポーター制度、法人全体研修の実施等の導入・整備を行いました。

やりがいのある職場づくりの取り組み

① 新採用職員研修の制度化

毎年4月、前年度中途採用者、及び、新年度新規採用者を対象に、各事業管理者等が講師となり、虐待防止、人権、支援技術等の研修を行います。また、配属部署以外の事業所への実務研修を導入しています。

② サポーター制度の導入

新採用職員にサポーター職員を配置し、OJTをはじめとして振り返り研修を1年間実施しました。

③ 法人全体研修の実施

年1回、全職員を対象に法人理念の共有化を目的とした全体研修を実施しました。なお、研修後は、理事・評議員も参加する交流会を行っています。

次ページでは、今年度に行なった『法人全体研修』の様子を紹介します。

2019年度 法人全体研修

今年度の法人全体研修は6月2日(日)に開催しました。午前中に救命講習、午後からは、各事業所より今年度の事業計画の説明、昨年度新規入職者からの1年の振り返り、岡本業務執行理事からの人権研修を行いました。

研修後の感想

救命講習

●いざという時に自分の行動に違いが出せるよう、救命技術について実際に訓練し、知っておくことが重要だと感じた。

●実際、救命活動が必要となった時に、どれだけ自分が動けるのかという不安はありますが、普段から、AEDの設置場所の確認や、救命方法について調べてみるなど、学ぶ姿勢が大切だと感じました。

人権研修

●「人権とはその人を知る事」という言葉が印象的でした。

●差別問題を我が事としてとらえて「知らなかった」ことを「知る」よう努め、今自分ができることは何かを考え行動していきます。

●当法人の理念にもなっている誰もが住みやすい社会の実現は、とても難しいことだが、とても大切なことだと感じている。遠い将来には福祉施設がなくても、互いを認め合い住みやすい世の中になると信じたい。

今回は法人本部の取組を紹介させていただきました。まだまだ不十分ではありますが、職員が長く勤められるような環境を整備していくことが、利用者さんへのより良い支援に繋がっていくと思っています。職員からも利用者さんやご家族からも選んでもらえるような、魅力のある事業所、法人を目指していきたいと思います。

ご報告

サニースポットは1階
事務所前に設置

今回の研修後、通所サービス事業所を中心にAED装置を配備しました。また、大阪北部地震より、1年後になりましたが、法人として非常災害計画を策定しました。

今後とも、社会福祉法人としての責務を全うできるように努めてまいります。

つながり後援会会員にご入会&ご寄附をありがとうございました。心より感謝申しあげます。

青地かじ子　青野有里　朝日悦子　茨木照世　因光寺鷲山和敬　植前秋恵　岡本茂　奥美奈子
梶谷忠大　梶谷温子　梶谷志帆　梶谷懐　金光英津子　神矢貴子　川嶋隆　河野照子
佐竹美和子　佐藤てる子　重ほづみ　嶋津美津代　嶋津匡孝　嶋津耕　清水直子　田中栄子
田中薫子　千守町子　土居能子　豊永愛弓　中川圭子　中川春枝　長田光子　中村君子
中村勝　中村野里子　中村勝　根本幸子　畠山定子　服部香代美　浜岸まり子　早見宇多子
肥後清美　藤田明美　古瀬和美　増井寿美　宮浦ヨシ子　三好和子　村濱妙子　山口富美恵
山倉憲子　山田喜代子　山本君代　吉岡宏朗　吉川直美　和田典子　以上５４名

2019年4月～6月21日現在

社会福祉法人つながり ご寄付の報告

２０１９年４月、当法人の理事でもある佐竹美和子様より、「利用者さんや職員の為に使ってください。」と、金銭のご寄付をいただきました。

佐竹様とも協議させていただき、サニースポットの食堂他へ、大型テレビを設置（計３台）させていただきました。

昼休みは利用者さんも大きな画面でテレビを見て楽しんでおられます。また、６月の職員研修時では、テレビにパソコン画面を映す等して活用させていただきました。

この場をかりて、お礼とご報告をさせていただきます。ありがとうございました。

『寄付等のお願い』

社会福祉法人つながり後援会、及び、社会福祉法人つながりでは寄付を募っております。また、障がいをお持ちの方が働ける場所や実習訓練の場、地域で暮らす為の物件等の情報提供にもご協力頂けると助かります。お金や物品等の寄付や情報提供をして頂ける場合は、社会福祉法人つながり法人本部【サニースポット内】まで、ご連絡いただきますようお願いいたします。

第18回　さにすぽ夏祭りのお知らせ

日時:7月20日(土)　10:00～15:00

(雨天決行)

場所:サニースポット(富田ふれあい文化センター隣)

小さいお子様から大人の方まで楽しめる内容がもりだくさん☆模擬店や製品販売、ゲームなどあります！！

～編集後記～

今回の通信では、家族会ひだまりの前会長山口さんと新会長宮浦さんのご挨拶がありました。山口さんはこれまで長年会長として、家族会を引っ張ってこられ大変だったと思います。お疲れ様でした。また、新会長の宮浦さんにおいては、山口さんの後任という事でプレッシャーに感じる事もあろうかと思いますが、今後とも法人と後援会・家族会が協力し、利用者さんにとって魅力のある法人・事業所にしていきたいと思います。

つながり通信編集担当:藤森

法人事業所一覧

サニースポット（生活介護、就労継続支援B型）
〒569-0814　高槻市富田町4-7-16
(TEL)072－697－7080　(FAX)072－697-7086

しゃあぷ（日中一次支援）
〒569-0814　高槻市富田町4-7-16(サニースポット内)
(TEL)072－697－7105　(FAX)072－697-7108

ワークスポット
(就労移行支援、自立訓練【生活】、就労定着支援)
〒569-0814　高槻市富田町2－1－24
ハイツエレガンス1F
(TEL･FAX)072－696－4484

ふらっと（障がい児放課後等デイサービス事業）
〒569-1144　高槻市大畑町25－6　小川ビル1F
(TEL)072－668－2781　(FAX)072－668-2785

コラム（共同生活援助）
(TEL)072－694－1775　(FAX)072-694－1776

地域生活相談所**ライラック**
(障がい児･者ホームヘルプ･ガイドヘルプ･障がい児･者　相談支援/高齢者ホームヘルプ)
〒569-0822　高槻市津之江町2丁目24－12今井ビル2F
(TEL)072－676－5513　(FAX)072－676－5531

キッズスポット**かるがも**　子育て支援　つどいの広場
〒569-0822　高槻市津之江町2丁目24－12今井ビル1F
(TEL･FAX)072－661－2326

★ 法人ホームページ ★
☆ http://tsunagari.info /
★ Facebook もチェック！

１９９６年５月１日　第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行　定価二百円
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２－２　東興ビル４階